

# 地域の歴史・文化と共に魅力ある 看護学校を創る取り組みと今後の展望

佐藤美春<sup>†</sup> 河村哲治第77回国立病院総合医学会  
2023年10月21日 於 広島

IRYO Vol. 78 No. 6 (384-387) 2024

## 要旨

国際病院機構姫路医療センター附属看護学校は世界遺産の国宝姫路城を臨む好立地に在り、四季折々の姫路城の景観を楽しむことができる。本校の受験者数は減少傾向にあるものの入学生は定員を超えている。学生たちは9割以上が兵庫県出身者であり、毎年7から9割の学生は主に兵庫県内および国立病院機構（NHO）病院に就職する。姫路市の18歳人口推計では今後20年間で30%以上の減少が見込まれており、大学などへの進学率が55%程度で推移していることから先行きは厳しい。地域の歴史・文化と共に魅力ある看護学校を創る取り組みについて4点述べる。1. 学修の一環として地域活動に積極的に参加している。地域のイベントでは看護学生のニーズは高い。姫路の広域災害訓練、姫路城周辺的环境清掃、姫路城マラソンの救護、老人保健施設での催しなどでは地元の若いマンパワーとして活躍している。2. 地元の大学・多職種と連携・協力して看護教育に取り入れている。近隣大学薬学部の学生との相互学修、地元の母子との交流などを行っている。3. SNSやホームページを活用して姫路の歴史、文化と合わせて学生の活動を発信している。地域活動を支援し、インターネットなどを通じて情報発信することで、病院や看護学校の存在感を示す。4. 教育実践能力の向上のために国立病院機構近畿グループ内の学校間および病院との連携を活かし、研究授業、研究発表、研修会、学校関係者評価、学校相互評価などの活動を行い、教育実践能力向上と教育の評価・改善への取り組みを行っている。今後の展望として、1. 地域と連携することで、学校運営の基盤となる運営費を確保する。2. 地域の看護学校、大学、多職種、関係機関と連携し、地域の人材としての学生を協同して育成するという観点から、地域に開かれた学校として存続する。3. ICTを活用し、学生および卒業生が帰属できるプラットフォームを作り、学生の学びや感性を活かした情報発信、情報交換や交流を進める。

キーワード 地域、看護学校、取り組み、今後の展望

## 緒言

看護教育の大学化は1990年代後半から始まり、

2023年に大学数は304校<sup>1)</sup>になった。社会情勢の変化や国民のニーズに対応できる、より質の高い看護職を養成し学校教育内容の充実のために、教育年限

国立病院機構姫路医療センター附属看護学校 教育主事 <sup>†</sup>看護師・看護教員  
著者連絡先：佐藤美春 国立病院機構姫路医療センター附属看護学校 〒670-8520 兵庫県姫路市本町68番地  
e-mail : sato.miharu.yh@mail.hosp.go.jp  
(2024年3月28日受付 2024年8月2日受理)  
Efforts and Future Prospects to Create an Attractive Nursing School with Local History and Culture  
Miharu Sato and Tetsuji Kawamura  
NHO Himeji Medical Center Nursing College  
(Received Mar. 28, 2024, Accepted Aug. 2, 2024)  
Key Words : local, nursing school, efforts, future prospects